

『モディリアーニ 真実の愛』 原題 Modigliani 2005



映画批評

『モディリアーニ 真実の愛』 原題: Modigliani 2005

～ モディリアーニの苦悩と真実の愛を貫いたジャンヌ

塚田三千代 (翻訳家・映画アナリスト)

©m.tsukada

“When I know your soul, I’ll paint your eyes.”

「君の魂が見えたら、その瞳を描こう」

この言葉は、モディリアーニが眼に瞳が描かれていない理由を、ジャンヌに言ったセリフである。そして妻ジャンヌをモデルに描くモディリアーニの画家たる姿勢がこのセリフに表象されている。つまり、この言葉の真意が映画の主題として全篇に脈打っている。

ミック・デイヴィス監督は、場面の状況で交わされる会話を自由な想像力を駆使して創作して、それを映画のなかの人物に語らせる。「愛と情熱」、「情熱」が人を運命に向かって揺り動かす原動力だという。ゆえに、監督はジャンヌとモディリアーニにとどまらず、彼ら2人の周辺にいる人々をとりあげ、静かにたたずむようなユトリ口、熱血漢あふれるスーテン、画家としてライバルのピカソ、画商のズボロフスキー、そして宗教の違うジャンヌの両親の描き方にまで、この視線を注ぎこんでいる

当時のパリの画壇は、後期印象派を代表するゴッホ、ロートレック、ゴーガン、セザンヌの亡き後で美術史のエポックとなるエコール・ド・パリ (École de Paris) である。その人たちはパリで生活し独自の創作をめざす若き画家たちでごった返していた。そのなかに天才画家モディリアーニと妻ジャンヌもいた。本映画、この二人を通して真実の「愛の絆」と芸術家の創作活動の苦悩を奥深く感じとらせてくれる作品である。本映画は事実どおりというよりはむしろ

監督や脚本家の想像をふくらませて創作した物語であることを心得ておきたい。しかし、画家自身の事実関係がどのようなものであったかを知ることによって、映画がさらに感動的になることも事実である。

モディリアーニはイタリア、トスカーナ地方に生まれ、18歳でミケランジェロの彫刻に触発されて彫刻家を志すが、病弱な体質のためにあきらめて絵画に専念するようになる。イタリアの古典美術にふれ、新しい絵画を模索し、イタリア未来派に関係したりするがパリに出る。パリはエコール・ド・パリと呼ばれ、自由な気風の独自の芸術を志す若者たちの心を惹いていた。ゴッホ、ロートレック、ゴーガン、セザンヌが逝去した後のパリに、外国から若い芸術家たちが集まってきて、それぞれが独自の芸術の新しい方向を模索し実験していたからである。「青の時代」以後のピカソは、ブラックと共にキュビズムを創始した。アンリ・マチスを中心とし、ドラン、ヴラマンク、デュフィたちによるフォビズムも誕生する。画家たちは観光化したモンマルトルを去り、モンパルナスへとアトリエを移す。

モディリアーニはどの派にも属さず、モンパルナスにアトリエを借りて、独自のフォルムを創ろうとするのだが、彫刻と絵画のはざままで悩みつづけ、酒と麻薬におぼれていく。イギリスの女流詩人ベアトリス・ヘイスティングやスーチン、キスリング、藤田嗣治などと親交を結ぶ。ポーランド出身のズボロスキー夫妻(後に画商)との出会い、そして運命の絆となるジャンヌ・エピュテルヌと出会うことになる。彼女は父親の反対を押し切って同棲生活を始めたのは1917年のことである。同年の12月3日からパリのベルト・ヴェイユ画廊で生涯唯一の個展が開かれるが、展示された裸体画がスキャンダルとなり当局の物議をかもし撤去されてしまう。不遇つづきであった。静養をかね妊娠中のジャンヌとともに南仏ニースで1年余りを過ごすことになり、南仏の明るい光のなかで農夫や子供たちや風景画などを制作する。11月29日、娘ジャンヌが誕生。翌年、ルノワールに会う。5月パリに戻り、ロンドンでの「現代フランス美術グループ展」で高い評価を得る。再び健康状態が悪化し、不安と絶望かられて酒場から酒場へ放浪を繰り返す。そして翌年の1月半ばに病状急変で入院し、24日に死去する(享年35歳)。2人目の子供を身ごもっていたジャンヌは26日の未明、実家のアパートの6階から身を投げて後を追う(享年21歳)。当初は別々に埋葬されたが、5年後にやっと2人はパリのペール・ラシェーズ墓地に一緒に葬られた。モディリアーニはゴッホに並ぶ破滅型の画家だったが、多くの友人たちに慕われ、驚嘆と羨望のまなざしで今日なお多くの人々に見守られている。ジャンヌは、その生涯は悲劇的で短かったが、繊細であるがゆえに自己に誠実で、モディリアーニへの「真実の愛」のために生きた女性である。

映画はモディリアーニとジャンヌの出会いからわずか3年間の、情熱的で真実の愛の物語を描いている。第一次世界大戦後の1919年のパリ、モンパルナス。カフェ・ラ・ロンドに若い芸術家たちが毎夜集まり、酒、たばこ、歌、そして歓声をあげて、戦争から開放された自由を謳歌し、芸術議論で気炎をあげていた。ここに集まる芸術家たちのなかで、ピカソはキュビズム(立体派)の創始者で成功者。すでに個展を10回も開き、画商やコレクターがすべて

買い上げていた。一方、モディリアーニはまだその才能は評価されておらず、絵はまったく売れなかった。スーティンやユトリロ、キスリング、リベラなども同様であった。だが、店に入ってくるモディリアーニの存在感はピカソを威圧するほどであり、それゆえにことさら2人は互いに対抗心をむき出しにしていた。ピカソと親交のあついで詩人のジャン・コクトーは、この映画には登場しないが藤田嗣治も彼らと親交があった。ヘミングウェイを「失われた世代」(“You are all a lost generation,”)と称したアメリカ、ユダヤ系女流詩人で小説家のガートルード・スタインもこの店に出入りし、話題の中心はその年の美術コンテストにピカソとモディリアーニが参加するか否かで盛り上がっていた。



<STORY>

映画はモディリアーニとジャンヌの出会いからわずか3年間の、情熱的で真実の愛の物語を描いている。

第一次世界大戦後の1919年のパリ、モンパルナス。カフェ“ラ・ロンド”に若い芸術家たちが毎夜集まり、酒、たばこ、歌、そして歓声をあげて戦争から開放された自由を謳歌し、芸術議論で気炎をあげていた。

ここに集まる芸術家たちのなかで、ピカソはキュビズム(立体派)の創始者で成功者。すでに個展を10回も開き、画商やコレクターがすべて買い上げていた。一方、モディリアーニはまだその才能は評価されておらず、絵はまったく売れなかった。スーティンやユトリロ、キスリング、リベラなども同様であった。だが、店に入ってくるモディリアーニの存在感はピカソを威圧するほどであり、それゆえにことさら2人は互いに対抗心をむき出しにしていた。

ピカソと親交のあついで詩人のジャン・コクトー、この映画には出てこないが藤田嗣治も彼らと親交があった。ヘミングウェイを「失われた世代」(“You are all a lost generation,”)と称したアメリカ、ユダヤ系女流詩人で小説家のガートルード・スタインもこの店に出入りし、話題の中心はその年の美術コンテスト「サロン・デ・アルティスト(Salon des Artistes)」にピカソとモディリアーニが参加するか否かで盛り上がっていた。2人が参加すればこのコンテストの盛況は間違いなしと期待しているからである。

当時のモディリアーニは女子画学生のジャンヌ・エビュテルヌと恋に落ち、同棲生活をはじめたばかりであった。彼は33歳、ジャンヌは19歳であった。2人の間に娘が生まれるが、敬虔なカトリック教徒であるジャンヌの父親はモディリアーニがユダヤ人であるために娘の結婚に猛反対し、生まれた赤ん坊を修道院に預けてしまう。幼少時からの肺結核で、モディリアーニの健康状態は日に日に悪化していく。南仏ニースで1年間静養し、回復の兆しをみせ、ベルト・ヴェイユ画廊で生涯ただ一度の個展を開くことになったが、画廊のウィンドウに飾った裸体画が警察の検閲にかかり、展覧会の中止を命じられた。すべてが不遇であった。彫刻家を断念して画家に転向したモディリアーニであるだけに、彫刻と絵画のはざままで悩み、不安と絶望から酒場での放浪、麻薬、幻惑へと追い詰められていく。そんな時、一度会いに行ったことのある印象派を代表するルノワールを思い出したのかもしれない。あの時、ルノワールは「君は狂犬かね？絶壁に立っているのだろ。誰でも一度はそうだ。指がこのように曲がってしまったが、若いときはそうではなかった。私のモデルは好きじゃない。本当は細くて背の高いのが好きじゃ。」と言ってくれた。

モディリアーニは泥酔し雨に濡れて、カフェ“ラ・ロトンド”に姿を現す。そして、みな注目するなか、ピカソを挑戦するようにつめ、コンテスト参加者リストに自分の名前を書き込んだ。これを見てピカソもモディリアーニのペンをとって署名した。固唾をのんで見守っていた客たちから大きな歓声があがった。今回の出品者はスーティン、リベラ、キスリング、ユトリロ、ピカソ、モディリアーニに決まった。パリは熱狂に包まれ、若き画家たちはいっせいに描き始める。一心不乱である。モディリアーニも自分のため、そして最愛の妻と子供のために絵筆をとって、ジャンヌに青いドレスを着せ真実の彼女を描く_____。

映画のセリフ

心の深層を考えさせる会話である。..

登場人物のイメージを象徴し、強い印象を与えているセリフをとりあげ、それが話される状況を深く味わってみよう。

①

MODIGLIANI: What do you think? どう思う？

JEANNE: Where are my eyes? 眼はどこに？

MODIGLIANI: I was too far away I couldn't see them. 遠すぎて見えなかった
When I know your soul I'll paint your eyes. 本当の君が判ったら瞳を描こう

画塾で絵を学んでいた19歳のジャンヌ。彼女はモディリアーニのモデルになるが、その絵に眼が描かれていないので不思議に思う。すると、モディリアーニは本当の君が見えたらその瞳を描こうと応えるシーンの会話である。

ジャンヌ役を演じるのは、エルザ・ジルベルスタイン。彼女はモディリアーニが描く女性の長い首、どこか悲しげな面差し、印象的な瞳の雰囲気こそなえ、ひたむきな情熱で献身的に画家モディリアーニを支えるジャンヌ役をみごとに演じている。

② 印象派の巨匠ルノアールに会って、3人が交わした会話

RENOIR: This one looks mad. Are you mad? They scare you. Deformed instruments. The genius sucked out through the fingernails! これは狂犬のようだね。君は狂犬か？みんな君を怖れているぞ。(リユーマチで曲がった指を見せて) 道具は曲がってしまった。天才は爪で引搔かれる！

MODIFLIANI: They don't bother me. 僕は誰にも邪魔されていません。

RENOIR: He's a liar Pablo. うそつきパブロ。

MODIGLIANI: May I ask you, how much a place like this cost? お尋ねしたいことが、ここはお幾ら位ですか？

RENOIR: Two paintings. Small. I have two cars in the stables. A sketch for each and this Rodin I gave one little pencil drawing of a flower pot, no flower, just a pot. You will sell? 絵で2枚分だね。小さい絵だ。車が2台、スケッチ1枚で1台。このロダンの彫刻花瓶の小さな鉛筆デッサン、しかも花なしで、花瓶だけだよ。君は絵を売っているか？

PICASSO: Modigliani is on the verge. モディリアーニは今、崖淵に立っています。

RENOIR: On the verge yes I know. The precipice, the cliff, where all artists converge and jump to their fate. そう誰でも一度は崖淵に立つ。瀬戸際には絶壁に、芸術家なら一度はそこに立ち、一点集中して運命にむかって飛び込むのだ。

RENOIR: Nudes mostly. Occasional portrait to eat or drink. Yes? ほとんどが裸体だ。ふつうの肖像画は飲食代のためだ。どうだな？

MODIGLIANI: Yes. How did you? ええ、あなたはどうでしたか？

RENOIR: Pablo told me. I never liked painting nudes myself. Most of the women in my time were too fat and ugly, ugly. I like them tall and slim. パブロが教えてくれたが。私自身は裸を描くのは好まなかった。私の時代の女性は太って醜いのが多かった。背が高くてやせているのが私の好みだが。

PICASSO: So, it's late, we should go. それじゃ、おいとましよう。

RENOIR: Modigliani. モディリアーニ

MODIGLIANI: Yes. はい。

RENOIR: Amedeo Modigliani. アメデオ・モディリアーニ。

MODIGLIANI: Yes. はい。

RENOIR: Are you mad? I knew that. 君は狂犬か？わかっていたよ。

PICASSO: You will enter the competition?

MODIGLIANI: Will you?

PICASSO: Did you see what painting can bring, uh, comfort, wealth, security.

Only fools struggle and starve. Paris is crawling with them.

So paint uh! Make money! Live old!

Fuck as many women as you can, but drink, in moderation.

MODIGLIANI: The Gospel according to Picasso.⁸

モディリアーニは南仏に結核療養と絵画制作のために1年ほど滞在する。その滞在中の他の画家たちと一緒に晩年をすごすルノアールに会いにでかける。上に載せた会話はそのときのものである。内容についてはいろいろな憶測で異なるが、ミック・デイヴィス監督の想像はたぶん真意をついていると私も同意できる。ルノアールがモディリアーニの才能を高く評価していたことは確かであるから。絵の売れないモディリアーニを、自分の若きころに重ね合わせて同情し、画商のズボロスキーに彼の絵を1枚与えて、間接的ながらモディリアーニを援助しているからである。

③

SLON MANAGER: Diego Rivere! Mexico. ディエゴ・リベラ! 《メキシコ》

SLON MANAGER: Kisling. Fear. キスリング 《恐怖》

SLON MANAGER: Utlillo. Madness. ユトリロ 《狂気》

SLON MANAGER: Picasso. Entitled, Modigliani. ピカソ。題名、《モディリアーニ》

SLON MANAGER: And finally, I give you Modigliani. Simply entitled, Jeanne. 最後に、モディリアーニ。シンプルな題名で、《ジャンヌ》

Voice of Modigliani: When I know your soul, I will paint your eyes モディリアーニの声: 本当の君が判ったときに君の瞳を描こう。

多数の人が勢ぞろいし、いよいよコンテストの開幕である。モディリアーニはまだ姿を現わしていないが、作品の公開は次々と進み、モディリアーニの幕が開く。それは青いドレスを着たジャンヌの絵で、瞳が描かれていた。ジャンヌの耳元にモディリアーニの言葉が聞こえてきて、彼女の眼から涙がとめどなくこぼれ落ちるのだった。

④

ジャンヌは夫モディリアーニの死後、ピカソに会いに行き、こう言うのだった。

PICASSO: Jeanne, I offer you my deepest sympathies. I can imagine, I cannot imagine how you must feel. ジャンヌ、心からお悔やみを。よくわかる、いやとても今の君がどんな気持ちでいるかなんて。

JEANNE: Do you know how I feel, Pablo? Shall I tell you? I feel, I feel nothing. I have a baby in my belly. Another heart beating. Another soul craving and I'm empty, like your glass. You'll go on Pablo, you all will live a full and rich life, but I swear to God when your time comes, when you lay there on your death beds, the name Modigliani will not be far from your lips. You can never paint over this night, it belongs to him. パブロ、どんな気がしているかお知りになりたい？言いましょうか？私、なにも感じられないの。お腹に赤ん坊がいる。新しい命が息づいている。新しい魂が私を求めている、でも、空っぽなの、あなたの空っぽのグラスのように。パブロ、描きつづけなさい、みんな生きながらえてお金持ちになって、私は神に誓っているわ、あなたがたにそのときが来て、死のベッドに横たわるときになったらモディリアーニの名を口にするでしょう。今夜は絶対に描かないでね、今夜は彼の夜だから。

モディリアーニの絵画《ジャンヌ》が、ピカソも含めて他の出品者たちからも賞賛されて優勝を勝ち得た。その夜にモディリアーニは多量の咯血で死を迎えた。ジャンヌは呆然とさ迷い、うつろな目つきでカフェ・“ラ・ロトンド”に入ってきた。グラスを前に独り座っているピカソに向かって言う。映画は事実と創作世界がいきまじる。

事実はモディリアーニの葬儀の2日後に、身重のジャンヌが実家のアパートの6階の窓から早朝の雪の庭に投身した。これほどの切なさ。人々はジャンヌの情熱と愛と真実の生涯をけっして忘れ去ることはできないであろう。

⑤

モディリアーニの死を知った巨匠ルノアールは言う。

Voice of Renoir: I saw him dance once by the statue of Balzac, so beautiful his face, so graceful his arms. As he swayed it was as though he smiled, he was all things I once was. So I stole that moment and I locked it away in my mind to be there to comfort me in my ending days...August Renoir

ピエール＝オーギュスト・ルノアールの声によるナラティブで、『モディリアーニ 真実の愛』(Modigliani 2005)は終わる。

【映画史リテラシー】

●1920年代、モンパルナスに集まった芸術家たちのライフスタイル、エコール・ド・パリ (École de Paris)

●言語: 英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語

●場所: パリ モンパルナス 1920 年代

●登場人物

アメデオ・モディリアーニ…アンディ・ガルシア ジャンヌ・エビュテルヌ… エルザ・ジルベルス
タイン パブロ・ピカソ…オミッド・ジャリリ オルガ・ココローヴァ…エヴァ・ハーツィゴヴァ マッ
クス・ジャコブ…ウド・キア モーリス・ユトリロ…イポリット・ジラルド ベアトリス・ヘイスティン
グス…スージー・エイミー ジャン・コクトー…ピーター・キャパルディ ジャンヌの父 …ジム・
カーター ジャンヌの母 …ミシェル・ニューウェル ガートルード・スタイン… ミリアム・マーゴリ
ーズ フォスター・ケイン… ランス・ヘンリクセン

●『モンパルナスの灯』(1958) ジャック・ベッケル監督、ジェラルド・フィリップ主演のフランス
映画 108 分

『モディリアーニ～真実の愛～』2004 年 ミック・デイヴィス監督のフランス・イギリス・イタリア
合作映画

ドキュメンタリー映像作品『パリ 狂騒の 1920 年代』2013 年 NHK

小説『エコール・ド・パリ殺人事件』2008 年 講談社 深水黎一郎のミステリー小説 作中作と
いう形で、エコー ル・ド・パリに関する美術論の展開に事件がからむ。

●参考資料

「20世紀の美術」岩波書店 「読むブリヂストン美術館」

●

Modiglianiby Jeanne Modigliani

Director & Casts

Directed by Mick Davis

Writing credits Mick Davis

Amedeo Modigliani Andy Garcia

Jeanne Hebuterne Elsa Zylberstein

Pablo Picasso Omid Djalili

Maurice Utrillo Hippolyte Girardot

Olga, Picasso's Wife Eva Herzigova

Max Jacob Udo Kier

Beatrice Hasting Susie Amy

Jean Coctau Peter Capaldi

Zborowsky Louis Hilyer

Soutine Stevan Rimkus

Diego Rivera Dan Astileanu

Moise Kisling George Ivascu

Eudoxie Hebuterne Michelle Newell

Gertrude SteinMiriam Margolye

[映画情報]

監督:ミック・デイヴィス 脚本:ミック・デイヴィス 製作:アンドレ・ジャウイ 他

音楽:ガイ・ファーレ イ

配給:アルバトロス・フィルム

アメリカ・フランス・イギリス・ドイツ・ルーマニアなど6ヶ国合作

初公開年月 2005/07/09

7月9日よりシャンテシネ他にて全国拡大ロードショー

© 2005 m.tsukada. All Rights Reserved.